

質疑応答 (要旨)

ご理解いただきやすいように表現の変更や加筆・修正を行っている箇所があります。

Q: 第 3 四半期 (10~12 月) の産業 IT の業績について、受注高が増えてない中で増収増益に転じた要因を教えてください。

A: 根幹先を中心として投資意欲の強いお客様が多くなってきたことを受け、業績は回復基調にあります。また、今回お示ししている受注高には入らない運用等が好調に推移していることも一因です。

Q: 第 3 四半期の売上高と利益の状況はよかった一方、受注状況はまだ厳しい状況にあり、先行きが気になります。特に、産業 IT の受注高の今後についてどういう感触をお持ちでしょうか。業界の動向を見ても上期には止まっていた基幹系の IT 投資も戻り始めているようであり、貴社のプレゼンテーションも明るいトーンでした。大型案件を受注する見込みが立っている等、第 4 四半期にはプラス転換が期待できそうな手応えを感じていますでしょうか。

A: 中堅中小企業向けは必ずしもまだ戻り切っていませんが、根幹先を中心として投資意欲の強いお客様からの規模を伴う案件の引き合いやパイプラインが増えてきている等、事業環境が好転してきているため、先行きについてあまり心配していません。収益性重視に基づいてリスクを見極めながら、投資意欲が強くないところに無理をしてまで受注を取りに行っていない結果、第 3 四半期の受注実績としてはまだ十分積み上がったと言えますが、今後についてはしっかりした積み上げができるとの感触を持っています。

Q: 受注状況について、もう少し補足をお願いできませんでしょうか。産業 IT については、投資意欲の強い顧客とは具体的にどのような業種を指しているのでしょうか。また、中堅中小企業向けはまだ戻っていないというコメントがありましたが、第 2 四半期と比べればよくなってきているのでしょうか。金融 IT については、受注計上時期の影響等で減少したとのことですが、具体的にどのような案件なのか、その他にも減少要因があったのかについて教えてください。

A: まず、産業 IT については、製造業やネットビジネス等をされている根幹先のお客様をはじめとして幅広くプラスに転じてきています。まだマイナスの要素もありますが、全体としてはかなり改善してきたと考えています。また、中堅中小企業のところは、上期は緊急事態宣言の影響もあって案件の出方が悪かったのですが、下期は改善傾向にあるということが確認できています。まだまだ力強いとまでは言えませんが、着実に改善の方向に向かっていてと考えています。金融 IT については、根幹先のカード会社の案件での受注計上時期が第 4 四半期にずれた影響が約 10 億円あったほか、前期に受注した大型案件の反動減も 10 億円強の減少要因となっています。なお、上期にマイナス影響の大きかった銀行のお客様は回復基調にあります。

Q: 当期末まで残り 2 ヶ月ほどですが、第 3 四半期末の受注残高の消化見込みや第 4 四半期の受注分のうち期中売上になる見込みからして、売上高の通期計画達成は問題なさそうでしょうか。大手企業からの需要は旺盛と言っても、そうした企業からの案件は期間が長そうな印象があり、短期的な売上高への寄与は限定的な気もするのですが、いかがでしょうか。

A: 工事進行基準による売上計上分等もありますので、現在の見通しからは達成に向けた手応えを感じています。引き続き着実な積み上げにより、売上高のみならず、利益重視でしっかりとした業績で着地できるように注力していきたいと考えています。

Q: B/S を拝見していると、ソフトウェア仮勘定の増加が目立ちます。サービス型ビジネスの拡大に向けた先行投資分が資産化されているのだと思いますが、内容について教えてください。

A: ソフトウェア仮勘定は 3 月末から 12 月末にかけて約 40 億円増加していますが、これはクレジット SaaS をはじめとして、中期経営計画で掲げる構造転換に向けた新サービス創出の方針に基づいて積極的な投資を実施しているためです。

Q: 新たに連結子会社となった MFEC について、第 3 四半期末の受注残高にはどれくらい貢献しているのでしょうか。また、第 4 四半期における業績面への貢献はどのくらいを想定しているのでしょうか。

A: MFEC の期末受注残高への貢献ですが、サービス IT が 40 億円強増加しているうちの大きな部分を占めているとお考え下さい。また、第 4 四半期の業績影響としては、前期実績である売上高約 130 億円、営業利益 8 億円強の 4 分の 1 というイメージでお考えいただければと存じます。なお、MFEC の当期業

績は堅調に推移していると理解していますので、しっかりとした内容で着地できるであろうと思っています。また、同社に関するのれん償却は年間で2億円弱の見込みです。

以 上